



～お葬儀屋さんのひとりごと～

葬にまつわる体験談集

■ 形見の役割 [兵庫県 女性 アルバイター 32歳]

私は祖母の形見をいくつか持っています。それは楊の櫛とお手玉と財布の飾り物なのです。これを一つの箱に入れて本棚に置いているのですが、何かしら悲しみに包まれた時や、祖母の事をふっと思い出した時などに、私は箱を開けて、櫛で髪を梳いたり、お手玉を手のひらに乗せたりして、留まった時間の中で、魂を漂わせるのです。やがて安らぎに満ちると、そっとそれらを箱の中に戻して、ふたを閉じます。形見というものは、生きている私達にとって大きな意味を持つものだと思います。思い出は心の中にあればよいと思いますが、時として形になったものの方が、人を励ましたり、優しい気持ちにさせるのが容易ですね。形見はそんな役目を持っているのではないのでしょうか。



私は人生に終わりを告げる際、肉親はもちろんですが、友人にも形見を残したいと考えています。わが人生に彩りを添えてくれた周囲の人達に形見を残したいと思います。昔から手仕事が好きで洋裁や、パッチワークを趣味としていますが、私が死ぬまで、続けるだろうと思われる唯一のものなのです。中学2年生から今までの人形の好きな親友には、人形を形見にしましょう。ムーミンに顔が似ているとのことで中学生の頃「ムーミン」と呼ばれていたのでカバの人形を。友人Mさんはとても花を愛する人なので、布の花束がいいなと思います。チューリップやスパティフィラム、綿の小切れでいっぱい作って大きな花束を作りましょう。仕事場で親しくなった映画マニアのTさんには映画用パッチワークの膝掛けを作りたいです。短大時代から好奇心いっぱいの友人Fさんは、いつも大きなバックを持っており、丈夫で楽しいビッグな布袋。細かいアップリケの模様で技あり、てとこでしょうか。中は仕切がたくさんあって使いやすくしています。

私は、こうやって、各々の友人を思い浮かべて様々な手作りの品を作っておきます。私を見送る式場では柩の側にそれぞれの形見が友人の名をたずさえて受けとってもらうのを待っていることでしょう。お線香を立てて手を合わせる。その後スッと身を引く。というお葬式は、それなりに、慎み深い雰囲気があるのですが、友人への形見を手にとって席へ戻るといってお葬式ならば、参列の人達も、知人どまりのつき合いの人達が、ああ、あの人は今は亡き人と非常に懇意な間柄だったのだろうと推し量り、静かに故人の交流を偲ぶといった演出もできるでしょう。

■ 悲しみに揺れたビデオ撮影 [男性 55歳]



今春、世話になっている会社の社長の娘さんと、そのお子さんが交通事故で同時に亡くなった。私は葬儀の受付を手伝うと共に葬儀の様様をビデオカメラで撮ることになった。

当日、その責任を果たすべく、初めのうちは訪れた方々を一人ものぐすまいと、また式次第を全て冷静に撮影していた。しかし式が進行するにつれ、いたましい交通事故、しかもひき逃げという最悪の事態もあり、その怒りと悲しみはひとしおになり、誰もが涙々の状態になってしまったのである。

特に長女と初孫を同時に失った社長夫妻と、娘さんの親友達の様子は参会者の涙を倍加したのだった。私自身も、この間までの元気だった娘さんを思い出し、ビデオを撮るところではなくなっていたのだった。涙でファインダー

も良く見えないしカメラぶれを押さえるのが大変だった。

そしてクライマックスの最後の別れがやってきた。2人とも安らかな顔であったが、明かに事故の傷をぬい合わせたあとが分り、改めて参列者の嗚咽と涙は最高潮に達した。私は片手にビデオ、片手にハンカチという状態だった。

出来上がったテープはブレがひどく、とても他の人に見せられるようなものではなかった。つまり私の感情が入り過ぎていたのだ。このように急死された方の葬儀のビデオ等による記録は第三者に頼むのがベターなのではないかと思いつくづく思った。おそらく、あのテープは社長が愛娘と孫にしてあげた自分の心づくしの努力を記録してもらったという満足感のみで、悲しみを再び思い出さないよう、どこかにそっとしまったままになっているにちがいない。